

第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略

令和3年度（2021年度）評価報告書

令和4年（2022年）9月
佐久市

<目次>

令和元年度改訂版佐久市人口ビジョン 概要	・ ・ ・ ・ ・ P 3
第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要	・ ・ ・ ・ ・ P 4
第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 体系図	・ ・ ・ ・ ・ P 5
第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価方法	・ ・ ・ ・ ・ P 6
基本目標1 数値目標の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・ P 8
基本目標1 重要業績評価指標（KPI）及び具体的な取組の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・ P 10
基本目標2 数値目標の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・ P 15
基本目標2 重要業績評価指標（KPI）及び具体的な取組の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・ P 17
基本目標3 数値目標の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・ P 20
基本目標3 重要業績評価指標（KPI）及び具体的な取組の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・ P 22
基本目標4 数値目標の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・ P 25
基本目標4 重要業績評価指標（KPI）及び具体的な取組の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・ P 27
地方創生推進交付金事業の効果検証	・ ・ ・ ・ ・ P 32

令和元年度改訂版佐久市人口ビジョン 第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要

令和元年度改訂版佐久市人口ビジョン 概要（令和2年（2020年）3月改訂）

○ 改訂の経緯

平成27年に「佐久市人口ビジョン」を策定し4年が経過していることから、改めて人口の現状分析を行い、最新の人口の将来推計に基づき、人口ビジョンを改訂

人口ビジョンの位置付けと対象期間

（位置付け）

- 本市における人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するもの
- まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策の企画・立案する上での重要な基礎として位置付け（対象期間）

- 対象期間は、令和42年度（2060年度）まで

人口の現状分析と将来人口推計

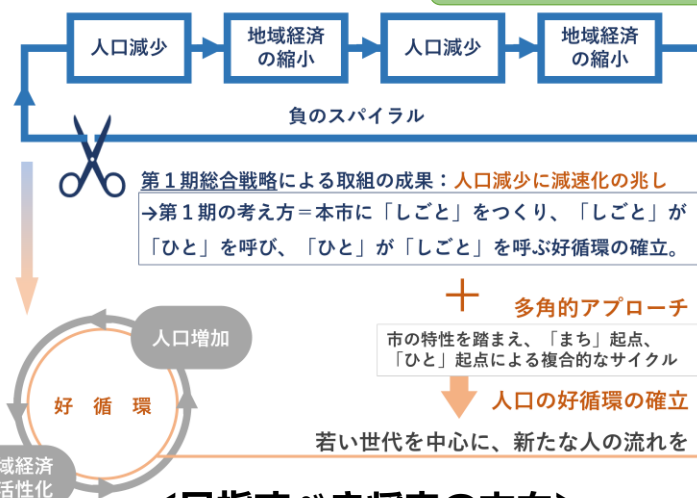
（現状分析）

- 本市の総人口は平成22年（2010年）をピークに減少に転じ、令和元年（2019年）の人口は98,609人
 - ※ 一方、世帯数は増加傾向にあり、令和元年（2019年）の世帯数は40,083世帯
- 自然動態は自然減の状態が続いており、合計特殊出生率は1.59（2018年）で女性人口（15～49歳）も減少傾向であり、男女とも生涯未婚率（50歳時未婚率）が上昇傾向
- 社会動態は、転入が平成24年（2012年）以降、転出が平成25年（2013年）以降それぞれ増加に転じ、近年は転入が転出を上回る社会増

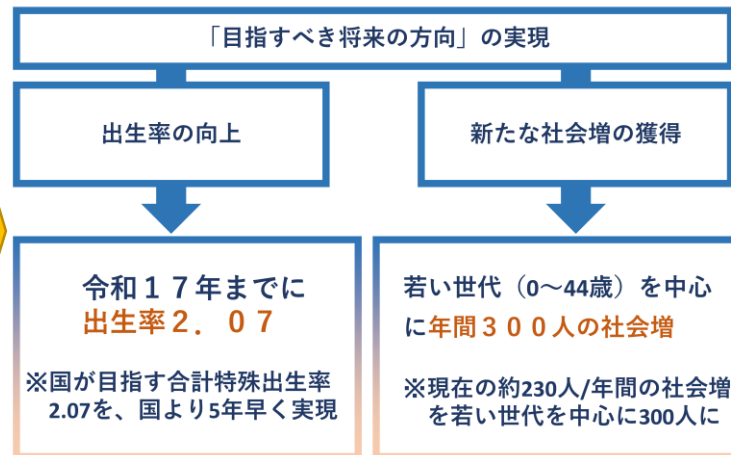
（将来推計）

- 令和22年（2040年）には9万人を下回り、令和37年（2055年）には8万人を下回る
- 老年人口比率は令和42年（2060年）に43.2%に達し、2015年に比べ約15%上昇

人口の将来展望



＜目指すべき将来の方向＞



＜人口の将来展望＞

- 令和42年（2060年）の国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計は、72,436人

- 改訂した人口ビジョンによる将来展望推計は、85,789人

人口規模86,000人を目標とし、人口構造の若返りを目指す

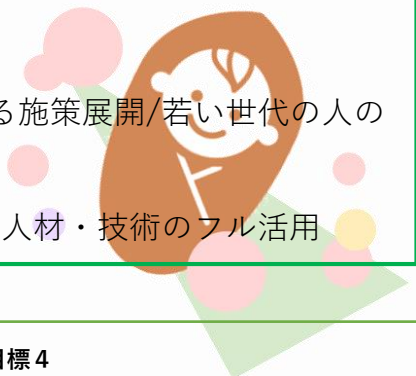
第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要（令和4年（2022年）7月改訂）

基本的な考え方

- 第1期総合戦略による取組で得られた「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という悪循環の確実な弱まりを受け、この悪循環を反転させ、好循環に結び付けるための具体策に切れ目なく着手していくことが必要であることから、令和2年（2020年）3月に、「第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定（計画期間：令和2年度～令和6年度）
- 「基本目標」、「基本の方針」の基本方針
 - ・ 第1期総合戦略で設定した4つの基本目標は維持
 - ・ 第1期のような網羅的なものではなく、中長期的なビジョンを持った上でこの時期何をすべきかを明確化し、特化・鋭角化
 - ・ 「しごと」を作り、「しごと」が「ひと」を呼び、「まち」が活性化する「しごと」起点という性質に加え、本市の特性を踏まえ、「まち」起点、「ひと」起点による複合的なサイクルといった多角的アプローチにより好循環を確立
 - 「具体的な施策」の基本方針

あらゆる施策において立脚すべき考え方と、時代の流れを踏まえて横断的に適用すべき手法を新たに設定（立脚すべき考え方）

 - ・ 卓越性を磨き、生かす施策展開/地域ごとの特徴を磨き上げ、個性化する施策展開/市民が誇りを持てる施策展開/若い世代の人の流れを具体化する施策展開/長期ビジョンを明確化した施策展開/人口減少を意識した施策展開（横断的に適用すべき手法）
 - ・ ターゲットの明確化とそこまで届く情報発信/未来技術の活用/国外の活力の活用/民間の発想・資金・人材・技術のフル活用



基本目標

基本目標1 選ばれる暮らしやすさを更に高める、佐久市における「まち」の創生	基本目標2 佐久市を知って、来て、住みたくなる、佐久市における「ひと」の創生	基本目標3 結婚・出産に先んじて子育てのトップラナーを目指す、佐久市における「ひと」の創生	基本目標4 多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における「しごと」の創生
○ 数値目標 「佐久市は住みやすい」と回答する人の割合 基準値：78.0%（R1（2019）） ➤ 目標値：80.0%（R6（2024））	○ 数値目標 人口の社会動態の増加数（計画期間の累計） 目標値：1,500人（R6（2024））	○ 数値目標 合計特殊出生率 基準値：1.59（H30（2018）） ➤ 目標値：1.77（R6（2024））	○ 数値目標 市内事業所の従業員数 基準値：40,327人（H28（2016）） ➤ 目標値：41,800人（R6（2024））
「まち」・「ひと」・「しごと」の創生で目指すべき将来			
● 時代に適応した地域が作られ、ネットワークで結ばれ、住民が生きがい豊かに安心して暮らし続けている。	● 本市の卓越した魅力が生まれ、その魅力に惹かれて、若い人を中心に地域内外の多くの人が集っている。	● 若い世代の結婚、出産、子育ての希望がかない、安心して子どもを生み、育てている。	● 魅力的で多様性のある仕事生まれ育ち、住民が安心して働き、経済的な安定を得ている。

【目指すべき将来】

「若い世代の希望をかなえ、選ばれるまち」を実現し、将来に渡って活力ある地域であり続ける。

【目指す人口】

「佐久市人口ビジョン（令和元年度改訂版）」に掲げる人口の将来展望の実現
令和42年の目標人口＝約86,000人

第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 <体系図>

【目指すべき将来】「若い世代の希望をかなえ、選ばれるまち」となり、将来に渡って活力ある地域であり続ける！

「まち」の創生

時代に適応した地域をつくる

「ひと」の創生

魅力を育み、人が集う

人口減少を和らげる

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

「しごと」の創生

魅力ある仕事と経済的安定を生む

【第2期戦略で目指す方向】

基本目標

具体的な施策

1 選ばれる暮らしやすさを更に高める、
佐久市における「まち」の創生

(数値目標) 「佐久市は住みやすい」と回答する人の割合

- (1) 民間との協働による機能集約型まちづくりの推進
- (2) 新たな技術でつなぐ地域間ネットワークの構築

2 佐久市を知って、来て、住みたくなる、
佐久市における「ひと」の創生

(数値目標) 人口の社会動態の増加数

- (1) 知ったら行きたくなる・住み続けたい「シル」の推進
- (2) 来たらもっと知りたくなる・居たくなる「クル」の推進
- (3) 居たら住みたくなる・住み続けたい「スム」の推進

3 結婚・出産に先んじて子育てのトップランナーを目指す、
佐久市における「ひと」の創生

(数値目標) 合計特殊出生率

- (1) 子育て世代が実感する子育てのトップランナーの実現
- (2) 人が心惹かれる子育ての先進地化の浸透

4 多様な職場、多様な働き方から始める、
佐久市における「しごと」の創生

(数値目標) 市内事業所の従業者数

- (1) 新たな働き方「佐久市型スマートワーク」の創出
- (2) 世界とつながる「佐久市型グローバルワーク」の推進
- (3) 官民連携による地域産業への新たな付加価値の創出

施策立案で「立脚すべき考え方」と
「横断的に適用する手法」

【立脚すべき考え方】

卓越性を磨き、生かす

地域ごとの特徴を磨き、個性化する

市民が誇りを持てる

若い世代の人の流れを具現化する

長期ビジョンを明確化する

人口減少を意識する

【横断的に適用する手法】

ターゲットの明確化と情報発信

未来技術の活用

国外の活力の活用

民間活力の活用

第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価方法

評価方法

- 総合戦略に基づく事業を着実に推進するため、PDCAサイクルを確立することが必要とされていることから、その進捗について評価し、今後の施策や事業の改善に活用
- 数値目標及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況を客観的に把握し、外部の視点も含めて評価を行い、その結果を公表

※ PDCAサイクルとは…

Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。Plan-Doとして効果的な地方版総合戦略の策定・実施、Checkとして地方版総合戦略の成果の客観的な検証、Actionとして検証結果を踏まえた施策の見直しや地方版総合戦略の改訂を行うことが求められる。



進捗状況

- 基本目標の数値目標及び重要業績評価指標（KPI）の進捗区分は、以下のとおり管理

順調	概ね順調	努力を要する	未公表	実績値なし
R3の実績値が目安値以上	R3の実績値が目安値の80%以上100%未満	R3の実績値が目安値の80%未満	統計調査結果が未公表のため、現時点では実績値が把握できない	・統計調査の実施がなく、今後も実績値が把握できない ・目安値・実績値がともに0の場合

※ 目安値：令和6年度（2024年度）の目標達成に向けて、指標が順調に推移しているかどうかの目安を表す値。多くの目標において、基準値から目標値に向かって均等に推移することを標準パターンとして設定。ただし、均等な推移が見込めない等これによりがたい場合は、その指標の特性を踏まえて目安値を設定。

※ 進捗率 = (実績値 - 基準値) / (目標値 (目安値) - 基準値) で算出

R3の進捗状況【数値目標】

基本目標1 選ばれる暮らしやすさを更に高める、佐久市における「まち」の創生		基本目標2 佐久市を知って、来て、住みたくなる、佐久市における「ひと」の創生		基本目標3 結婚・出産に先んじて子育てのトップラナーを目指す、佐久市における「ひと」の創生		基本目標4 多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における「しごと」の創生	
○ 数値目標 「佐久市は住みやすい」と回答する人の割合 基準値：78.0%（R1（2019）） ➤ 目標値：80.0%（R6（2024））		○ 数値目標 人口の社会動態の増加数（計画期間の累計） 目標値：1,500人（R6（2024））		○ 数値目標 合計特殊出生率 基準値：1.59（H30（2018）） ➤ 目標値：1.77（R6（2024））		○ 数値目標 市内事業所の従業員数 基準値：40,327人（H28（2016）） ➤ 目標値：41,800人（R6（2024））	
R3目安値 78.8%	R3実績値 77.3%	R3目安値 600人	R3実績値 651人	R3目安値 1.63	R3実績値 —	R3目安値 41,060	R3実績値 —
概ね順調		順調		未公表		未公表	

基本目標 1

基本目標 1 「選ばれる暮らしやすさを更に高める、佐久市における『まち』の創生」

数値目標の進捗状況

指標名	年度別 評価	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
「佐久市は住みやすい」と回答する人の割合 【満足度・重要度市民アンケート】	目安値		78.4	78.8	79.2	79.6	80.0	%
	実績値	78.0	81.4	77.3				
	進捗区分		順調	概ね順調				
総合分析	基本目標1の数値目標は、満足度・重要度市民アンケートに基づき設定しています。 「『佐久市は住みやすい』と回答する人の割合」については、「概ね順調」となりました。 施策と住みやすさの相関を見ると、住みやすいと回答した人の評価が高い施策として、「医療」（53.6%）、「幼児教育」（47.5%）、「高速交通ネットワーク」（45.1%）、「上水道」（44.6%）、「学校教育」（44.1%）が上位を占めている一方で、住みにくいと回答した人の評価が低い施策としては、「行財政経営」（14.5%）、「水産業」（16.9%）、「林業」（17.9%）、「ひとり親家庭支援・低所得者福祉」（19.1%）、「地域間交流・国際交流」（19.2%）、「地球温暖化対策」（19.6%）が上位を占める結果となりました。 これまでの満足度・重要度アンケート実施以来、「土地利用」、「林業」、「商業・サービス業」、「就労・雇用」、「地球温暖化対策」、「行財政経営」が例年満足度の低い施策として挙げられます。 住みやすさは高い順に、「野沢」83.4%、「臼田」81.5%、「浅間」80.6%、「東」79.0%となっている一方、低い順では、「望月」65.2%、「中込」69.1%、「浅科」74.3%となっています。 ※ 満足度は、「満足」と「やや満足」の合算値となります。							
R4の取組方針	住民が生活やライフスタイルの素晴らしさを実感し、生きがい豊かに安心して暮らし続けていくためには、それを支える「まち」が重要であり、第1期総合戦略から進める活力ある「まち」の創生に向けた施策に引き続き取り組む必要があります。「まち」の魅力を更に高みに押し上げることにより「ひと」や「しごと」を呼び込む、「まち」起点の取組を強化するとともに、「まち」の創生を基本目標の筆頭に据えて推進します。さらには、満足度の低い施策の充実にも応える必要があります。 具体的には、「行財政経営」に係る取組として、新型コロナウイルス感染症に係る各種対応に当たり、官民においてデジタル化を巡る様々な課題が浮き彫りとなっていることから、市民の利便性向上と負担軽減、さらには、職員の働き方改革を図るため、様々な行政手続のデジタル化・オンライン化を推進します。 また、「地球温暖化対策」に係る取組として、改正地球温暖化対策推進法の基本理念として盛り込まれ、佐久市気候非常事態宣言においても宣言した「2050年カーボンニュートラル」を実現するため、第二次佐久市環境基本計画及び佐久市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）を改定し、本市においても、省エネルギー化の推進、再生可能エネルギーの利用促進など脱炭素化に取り組み、地球温暖化対策を推進します。							

基本目標 1 「選ばれる暮らしやすさを更に高める、佐久市における『まち』の創生」

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況 (1) 民間との協働による機能集約型まちづくりの推進

指標名	年度別 評価	H27 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
居住誘導区域内の 人口密度（国勢調 査ベース）【都市 計画課調】	目安値		26.2	—	—	—	26.2	人/ha
	実績値	26.2	30.1	46.5				
	進捗区分		順調	順調				
進捗状況の分析	居住誘導区域内の人口（人口密度）は、国勢調査のメッシュ人口データを活用することが想定されますが、調査実施からメッシュデータの公表まで時間を要するため、正確な集計を行うことが困難であり、概数での記載となります。 概数上ではありますが、居住誘導区域内に人口が集まってきており、今後も生活サービス機能や地域コミュニティが持続的に確保されるよう、居住を誘導していきます。							

指標名	年度別 評価	H30 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
防災訓練を実施した自主防災組織の割合【危機管理課調】	目安値		70	80	90	95	100	%
	実績値	66	33	33				
	進捗区分		努力を要する	努力を要する				
進捗状況の分析	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、訓練を中止した自主防災組織が多くありました。 今後、出前講座などを通じて、自主防災組織の防災意識啓発に努め、安否確認訓練など効果的な防災訓練の実施を促進します。 ※ 自主防災組織は、組織化できない区（馬坂区、広川原区、美笹区、泉区）を除き、全区で組織済み							

基本目標 1 「選ばれる暮らしやすさを更に高める、佐久市における『まち』の創生」

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況 (2) 新たな技術でつなぐネットワークの構築

指標名	年度別 評価	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
「高度情報通信 ネットワーク」に ついての満足度 【満足度・重要度 市民アンケート】	目安値		16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	%
	実績値	15.4	16.5	18.3				
	進捗区分		順調	順調				
進捗状況の分析	令和２年度から開始した光伝送路網（FTTH化）整備は順調に進んでおり、新たに望月地区未整備エリアも整備エリアに加え、整備を進めることを決定しました。佐久ケーブルテレビの加入率も順調に増加（19.3％、令和４年３月31日現在）しており、光伝送路網整備は令和４年度中の完了を予定しています。 ながの電子申請サービスを利用した届出手続等のオンライン化について、子育てや健康に関する恒常的な手続や、ワクチン接種等期間限定のイベントへの申込やアンケートなどでの利用を積極的に行い、市民サービスの向上に努めました。							

指標名	年度別 評価	H30 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
公共交通延べ利用者数【生活環境課調】	目安値		115,400	117,800	120,200	122,600	125,000	人
	実績値	113,022	92,467	92,336				
	進捗区分		概ね順調	努力を要する				
進捗状況の分析	新デマンド交通「さくっと」の実証運行開始による利用者の増加も見られましたが、廃止代替バス路線の廃止・減便による路線バス利用者の減少や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための外出自粛等の影響により、全体としての利用者数は前年度より減少しました。 多様なニーズへの対応や利便性の向上、バス運行の最適化を目指し、まちづくりと連携した新たな地域公共交通体系の構築に向けた実証運行を引き続き実施します。							

基本目標 1 に係る具体的な取組の進捗状況①

(1) 民間との協働による機能集約型まちづくりの推進

- ① 佐久平駅南土地地区画整理事業への支援
 - ・ 土地地区画整理法及び市の土地地区画整理事業助成要綱に基づく組合への技術的・財政的支援、保留地購入企業の契約等支援、物件移転補償契約の支援、組合発注による道路、調整池、造成工事等の技術的支援、関係機関との協議支援
 - ・ 地区内幹線道路・広場・公園等の整備
- ② 佐久平駅周辺及び岩村田地区における健康長寿まちづくり
 - ・ 健康長寿を核としたまちづくりを推進するため、「健康長寿まちづくりの方向性を全市へ波及するための構想」を策定（令和2年度）
 - ・ もともとの宿場町であった岩村田の歴史・文化を取り戻しつつ持続可能な新たなまちをつくるという方針に基づき、「岩村田地区都市再生整備計画（基本計画）」を策定（令和3年度）
- ③ 臼田地区における佐久総合病院を核としたまちづくり（ハード整備については完了）
 - ・ 毎回テーマをもって、地域の人々が集まりコミュニティ活動を行う「地域の保健室はぐみ」の実施（開催回数：46回、参加人数：471名）
 - ・ 佐久病院の医師や職員とお茶を飲みながら病気のことなどを気軽に語らう「佐久病院とお茶べり」の実施（開催回数：21回、参加人数：252名）
 - ・ 街づくりのアイデアを皆で出し合って、ちょっとした実験を一緒にすすめ、地域に役立つ活動を育てる「うすだのまちづくり実験室ーラボー」の実施（開催回数：11回、参加人数：90名）
- ④ 野沢地区における「暮らしやすさ」を生かしたまちづくり
 - ・ 「野沢地区暮らすまち構想」に基づき、野沢小学校に隣接した県民佐久運動広場跡地に野沢児童館の移転整備及び子育てに関する様々な相談にワンストップで対応する子育て支援拠点施設を併設するための先進地視察及び「佐久市子ども・子育て支援拠点施設基本構想」の策定
- ⑤ 中込地区における新たなまちづくり構想の策定
 - ・ 中込地区のまちづくりの構想策定に係る有識者会議の開催（6/29, 12/22, 3/15）、中込地区のまちづくりの在り方検討会の開催（4/28, 5/27, 6/10, 7/20, 12/2）
 - ・ 「中込地区まわるまち構想」の策定
- ⑥ 居心地がよく、歩きたくなるまちなかづくりの推進
 - ・ 中込地区の中央グリーンモール（歩行者専用道路）において、住民にとって居心地の良い空間となるよう人工芝やテント、ファニチャー（イス・テーブル）の設置等の社会実験の実施
- ⑦ 災害に強いまちづくりの推進
 - ・ 令和元年東日本台風被害による各種災害復旧・復興工事
 - ・ 佐久平駅への雨量計の設置
 - ・ 職員を対象とした地域防災に関する基礎知識習得研修、避難者対応の判断力を養うため避難所運営図上訓練の実施
 - ・ 職員・住民合同避難所開設・運営訓練、区長、区役員、民生児童委員向けの防災基礎講座の実施

基本目標 1 に係る具体的な取組の進捗状況②

(2) 新たな技術でつなぐネットワークの構築

① 道路や情報通信網の整備・維持

- ・ 都市計画道路見直しに伴う、代替路線の舗装修繕
- ・ 県施行事業への負担金支出（相生大手線、相生赤岩線）
- ・ 茂田井陸橋ほか 4 橋の橋梁修繕設計及び修繕工事
- ・ 入沢・常和における県河川改良復旧事業における計画調整
- ・ 38-2号線ほか 6 路線の道路改良工事及び舗装修繕工事、測量設計業務
- ・ 佐久ケーブルテレビ(株)と連携した、ケーブルテレビ伝送路網の光化整備の開始、望月地区未整備エリアの追加整備の決定
- ・ 市民の安心安全の確保を図るため、整備を開始した光伝送路網を活用し、公立の小・中学校、保育園、児童館の防犯カメラシステムの整備

② 新たな公共交通体系の構築

- ・ 新デマンド交通「さくっと」の実証運行の開始（これに併せ、市内循環バスの廃止）、千曲バス自主運行路線「佐久上田線」の廃止、千曲バス自主運行路線「中仙道線」の運行委託（終点を岩村田から医療センターへ延伸）

③ 過疎地域における医療供給の安定化

- ・ 川西保健衛生組合病院の運営費に対する補助負担金の支出 69,960千円
- ・ 佐久市春日出張診療所：御鹿の郷ふれあいセンターにおける川西赤十字病院（第 2・4 金曜日）、岡田医院（第 1・3 水曜日）の医師による診療業務
- ・ 佐久市布施出張診療所：布施出張診療所における毎月第 2 火曜日に浅間病院の医師による診療業務
- ・ 佐久市湯沢無医地区出張診療所：湯沢公民館における毎週金曜日に岡田医院の医師による診療業務

基本目標 1 に係る審議会意見

- コロナ禍により、社会経済情勢が大きく変化している。市としても、今まで実施してきた事業の実施方法をそのままにするのか、大幅に見直さなければいけないのか、しっかりと検討されたい。
- コロナ禍が始まって3年も経過するが、市役所関係はほとんどDXが進んでいない。機動的な施策展開を図られたい。
- 区長会総会はコロナ禍により中止されているが、区長会総会や地区の会議等について、時機に即して、オンラインの開催を検討されたい。
- 防災訓練について、各地区が抱えている課題は様々であり、訓練対象が区ごとに異なると思う。市は、区に寄り添った訓練方法内容を区とともに検討してもらいたい。
- 地球温暖化対策について、二酸化炭素削減は着実に進んでいるが、地球温暖化に伴う気候変動に対する対策も関係部署が連携して取り組まれない。
- 望月地区については、住みにくい割合が65.2%と市内ワースト1であることから、市民アンケートでの個別意見等も拾い出して、住みやすくなるような対策を実施されたい。
- 佐久市は、人口減少により子どもの数も減少している。一方、岡山県奈義町は、合計特殊出生率が2.95となっており、佐久市も全て真似することはできないと思うが、先進地の出産・子育て支援施策を参考に新たな施策を実施されたい。
- 地区ごとの住みやすさについて、市民がなぜ住みにくいと思うのかを詳細に分析し、課題を克服するような施策展開を図られたい。浅間地区に一極集中しており、また、中込地区は高速交通網の恩恵を受けられない。

基本目標 2

基本目標 2 「佐久市を知って、来て、住みたくなる、佐久市における『ひと』の創生」

数値目標の進捗状況

指標名	年度別 評価	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
人口の社会動態の 増加数（計画期間 の累計） 【長野県毎月人口 異動調査】	目安値		300	600	900	1,200	1,500	人
	実績値	0	326	651				
	進捗区分		順調	順調				
総合分析	基本目標 2 の数値目標である「人口の社会増（転入者数－転出者数）」は、第 1 期総合戦略期間では累計で1,147人の社会増となり、令和 3 年度においても人口の社会増実績値は目安値を上回っており順調です。 （R3 ： 転入者数 3,680人－転出者数 3,355人＝325人） （R2 ： 転入者数 3,552人－転出者数 3,226人＝326人） 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、リモートワークが普及するなど、国民の仕事や生活スタイルに変容がみられるとともに、田舎暮らしを求め、地方移住への関心が高まっていることから、その効果もあると考えられます。 今後も、移住検討者から本市が選ばれるよう、高速交通網の充実や医療福祉の充実等、本市の卓越性を発信するとともに、関係各課と連携し、暮らしやすさを更に高める取り組みを全庁的に推進することが必要です。							
R4の取組方針	人口の社会増は続いているものの、どのような理由により本市へ転入してきたのかなど、転入者の属性を把握していない状況であり、転入者を増加させるための施策の立案やその効果を検証するためには、転入者の属性を把握し分析することが必要です。 本市では、移住者の定義を「自らの意思により転入を決定し、その土地に定住（少なくとも 5 年以上）する意志のあるもの」と定義しました。令和 4 年度は、転入者の属性等を把握する「転入者アンケート」を実施するとともに、そのアンケート分析結果に基づき、移住者にターゲットを絞り、費用対効果の高い施策を立案するとともに、現行の施策を見直し、移住者への訴求効果の高い施策を継続します。 また、これまでの補助金交付者へのアンケート調査や、移住相談者・市民からの聞き取りで収集した本市の課題等について関係各課と情報共有し、暮らしやすさを更に高めるための課題解決の方策を協議します。 さらに、SNS や「リモート市役所」、「Shijuly」などを活用した効果的なシティプロモーションの方法について検討します。							

基本目標 2 「佐久市を知って、来て、住みたくなる、佐久市における『ひと』の創生」

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況 （1）知ったら行きたくなる・住み続けたくなる「シル」の推進

指標名	年度別評価	H30（基準値）	R2	R3	R4	R5	R6（目標値）	単位
東京圏在住20代から40代までの世代の佐久市の認知度【広報広聴課調】	目安値		43.0	46.0	49.0	52.0	55.0	%
	実績値	41.6	41.5	36.7				
	進捗区分		概ね順調	努力を要する				
進捗状況の分析	リモート市役所は、「自治体が運営するオンラインサロン」や「主にビジネスで使われるSlackを活用した」ことが話題となり、開設から1年が経過し、参加者が1,600名を超えました。シティプロモーションアワードの受賞や各種セミナーへの登壇依頼等がありましたが、目安値を達成できませんでした。引き続き認知度を向上させるための施策に取り組みます。							

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況 （2）来たらもっと知りたくなる・居たくなる「クル」の推進

指標名	年度別評価	H30（基準値）	R2	R3	R4	R5	R6（目標値）	単位
東京圏在住20代から40代までの世代の佐久市への来訪指数【広報広聴課調】	目安値		23.0	24.5	26.0	27.5	29.0	%
	実績値	21.6	20.3	19.2				
	進捗区分		概ね順調	努力を要する				
進捗状況の分析	新型コロナウイルス感染症の影響により「クル」を推進する施策を実施することができず、目安値を達成できませんでした。引き続き認知度を向上させるための施策に取り組みます。							

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況 （3）居たら住みたくなる・住み続けたくなる「スム」の推進

指標名	年度別評価	H30（基準値）	R2	R3	R4	R5	R6（目標値）	単位
東京圏在住20代から40代までの世代の佐久市への移住者数（計画期間の累計）【広報広聴課調】	目安値		23	36	49	62	75	人
	実績値	12	44	100				
	進捗区分		順調	順調				
進捗状況の分析	実際に本市へ「スム」ための事前準備として、本市へ訪れ、住居又は仕事探し等をする者に対し、その滞在費の一部を補助する「佐久市移住検討者滞在費補助金」を令和3年7月に創設したことなどにより、目安値を大きく上回りました。今後は、移住検討者からのアンケート結果をもとに、現在の移住施策の検証と移住検討者の思考を分析し、新たな移住施策の立案に反映します。							

基本目標2に係る具体的な取組の進捗状況①

(1) 知ったら行きたくなる・住み続けたくなる「シル」の推進

- ① シティプロモーションによる本市の魅力の発信
(別途記載済み)
- ② 各種メディアを活用したPRの強化
(別途記載済み)
- ③ 医療・健康の強みを生かした東京圏における認知話題化策の推進
 - ・ メディア向け、ニュースリリース、ニュースレターの配信 7本
 - ・ 東京圏認知話題化施策として、試住の情報サイト「Shijuly」を構築
 - ・ 「古民家YouTuber」タイアップによるShijulyへ誘導するイメージ動画制作 4本
 - ・ 「ジモコロ」タイアップ記事掲載 1本
 - ・ 職員向けリモート市役所活用セミナーの実施
- ④ 著名人×佐久市コラボレーション事業の実施
 - ・ 北斗の拳マンホールカード(ケンシロウ)の配布@プラザ佐久、佐久市下水道管理センター(配布数: 10,625枚) ※R3.10から新カード発行(ジャギ)
 - ・ 第3期武論尊100時間漫画塾の閉塾(塾生: 27名)、第4期武論尊100時間漫画塾の開塾(塾生: 27名)
 - ・ NHK大河ドラマ「青天を衝け」主人公の渋沢栄一ゆかりの地としての詩碑周辺整備及び観光PR事業
- ⑤ シビックプライド醸成の推進
 - ・ 地域を知り、地元への愛着心(シビックプライド)を醸成し、将来の佐久地域への定着や就業へつなげる「佐久平地域まるごとキャンパス事業」を市民活動サポートセンターを拠点として実施(10のプログラム、参加者数: 87名)

(2) 来たらもっと知りたくなる・居たくなる「クル」の推進

- ① 地域資源を生かした「暮らすような滞在」の推進
 - ・ 佐久市振興公社、山村テラス岩下大悟氏、地域おこし協力隊員により、旧馬事公苑職員宿舎を「Sanson Terrace 木馬のワルツ」としてオープン
- ② 外国人観光客(インバウンド)の誘客推進
 - ・ (当該年度は、総合戦略に対応した実績なし ※コロナ禍により、外国人観光客(インバウンド)誘客事業に対する対応ができていない)
- ③ キャンプ場から広がる持続可能な観光地域づくり
 - ・ 「キャンプ」をテーマとしたフリーペーパー「Lantern」の発行(配布100施設以上、部数計8,000)、キャンプ場で環境問題をテーマとした自然体験イベント(ワークショップ)の実施、YouTube動画の作成、LINEスタンプの発行
 - ・ 本事業の効果により、佐久地域の年間キャンプ場利用者数が前年比175%増(市内キャンプ場)
 - ・ 荒船パノラマキャンプフィールド(旧内山牧場キャンプ場)
 - ・ 望月キャンプサイト野らら
 - ・ パラダキャンプ場
 - ・ 夢想庭園こもれびキャンプ場

基本目標 2 に係る具体的な取組の進捗状況②

(3) 居たら住みたくなる・住み続けたくなる「スム」の推進

① 移住に向けた「入口対策」の充実

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、対面による移住相談セミナー及び移住体験住宅を活用したお試し移住中止
- ・ オンラインを活用した移住相談セミナーの実施

② 「空き家バンク」、「お住まいオーダー」の活用による住まいの確保支援

- ・ 「空き家バンク」webサイトに物件を掲載するとともに、「空き家相談会」や「お住まいオーダー」制度の実施による物件の掘り起こし

【成立件数】

空き家バンク 新規物件登録数：19件、契約成立数：26件

お住まいオーダー 戸建て住宅：2件、土地売買：5件、戸建て住宅賃貸：7件、集合住宅賃貸：2件

③ 移住に当たっての補助制度の構築・運用

- ・ 「移住促進住宅取得費等補助金」、「リモートワーク実践者スタートアップ支援金」、「移住検討者滞在費補助金」、「U I J ターン就業・創業移住支援事業補助金」の交付

【交付実績】

移住促進住宅取得費等補助金：総額26,725千円

リモートワーク実践者スタートアップ補助金：総額5,741千円

移住検討者滞在費補助金：総額1,365千円

U I J ターン就業・創業移住支援事業補助金：総額6,600千円（R3からテレワーカーも対象に含まれたことにより実績アップ）

基本目標 2 に係る審議会意見

- 佐久市のPRや物産販売など、首都圏にアンテナショップの設置を検討されたい。
- 転入者の属性を分析して施策を展開されたい。
- 総合計画、総合戦略に「稼ぐ」という考え方が入っていない。人口減少の中、歳入を増やす努力をしてほしい。
- 佐久平駅南地区への集中投資はいいと思う。

基本目標 3

基本目標3「結婚・出産に先んじて子育てのトップランナーを目指す、佐久市における『ひと』の創生」

数値目標の進捗状況

指標名	年別 評価	H30 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
合計特殊出生率 【健康づくり推進 課調】	目安値		1.60	1.63	1.67	1.72	1.77	—
	実績値	1.59	1.66	—				
	進捗区分	※R1は1.55	順調	未公表				
総合分析	基本目標3の数値目標は、国の基幹統計調査に基づき算出をしています。 令和3年の合計特殊出生率は、令和4年10月頃に把握が可能となる予定で、実績値を把握することができないことから、「未公表」となります。 厚生労働省が発表した、令和3年の全国の合計特殊出生率は1.30（概数）と前年から0.03低下し6年連続低下しており、県内においても1.44と前年から0.02低下しています。また、令和3年の全国の出生数は、81万1,604人と前年から2万9,231人減少し統計開始以来最少となっています。さらに、令和3年の婚姻件数も50万1,116組と戦後最少となり、県内においても7,348組と戦後最少となっています。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による出会いの減少に伴う婚姻の減少、出産や子育てへの不安から「妊娠控え」が起きたとみられます。 なお、本市の令和2年の合計特殊出生率は1.66で、R1（1.55）から大きく上昇しました。 しかし、これは、算出の基になる15歳～49歳までの女性人口が減少を続けているのに対し、出生数が昨年より僅かに増加したことが要因であり、人口減少を克服する本質的な解決には至っていません。さらに、令和3年度の妊娠届の件数は675件で、昨年度比48件減少していることから、令和3年から令和4年の出生数は再び減少が見込まれます。							
R4の取組方針	人口の自然動態については、国、県の動向より高水準ではありますが、依然として人口の自然減の影響による人口減少が継続していることから、第1期総合戦略による取組に加え、更なる対策が必要です。 価値観やライフスタイルの多様化などはあるものの、子どもを生み育てたいという希望が確実にある中、まずは既に子どもを生む選択をした家庭に対し、第1子を生むための支援や、第2子、第3子を生み育てるための不安の払しょくなどの対策を強めることが有効であることから、他に比肩しない子育て環境の充実を図ることで、子育て世代が不安なく子育てをし、更に生み育てたいと思える環境を形成するとともに、子育て世代の流入といった社会増も誘引していきます。 令和2年から新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、妊婦と胎児への影響が心配され、心理的な不安から妊娠控えにつながっているとみられることから、その不安を和らげるよう周知啓発を図るとともに、新しい日常におけるライフステージごとの支援について検討します。							

基本目標3「結婚・出産に先んじて子育てのトッランナーを目指す、佐久市における『ひと』の創生」

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況（1）子育て世代が実感する子育てのトッランナーの実現

指標名	年度別評価	H30（基準値）	R2	R3	R4	R5	R6（目標値）	単位
第2子以降の出生数【子育て支援課調】	目安値		360	360	360	360	360	人
	実績値	360	388	378				
	進捗区分		順調	順調				
進捗状況の分析	多子世帯の保育料軽減などの保育サービスをはじめ、妊産婦への医療費自己負担分の助成や「教えて！ドクター」による疾病時の不安の軽減、つどいの広場などによる交流や相談の場の提供等、各種子育て支援事業の充実を図ってきたことにより、目安値を上回りました。 ※ 「教えて！ドクター」：子ども疾病対応出前講座。病気に対する知識習得による不安解消と子育て力向上を図る。 ※ つどいの広場：子育て中の保護者が気軽に集まり、情報交換や子育て専門相談員が子育てに関する悩みの相談に応じる。							

指標名	年度別評価	H30（基準値）	R2	R3	R4	R5	R6（目標値）	単位
「子育て支援・児童福祉」についての満足度【満足度・重要度市民アンケート】	目安値		36.0	37.5	39.0	40.5	42.0	%
	実績値	34.6	35.3	29.8				
	進捗区分		概ね順調	努力を要する				
進捗状況の分析	各種子育て支援事業の充実を図っていますが、目安値を大きく下回りました。新型コロナウイルス感染症の影響により、つどいの広場の参加人数の制限を行うなど、一部事業内容を制限している影響も考えられますが、現在進めている子育て支援拠点施設の整備等、引き続き子育て支援事業の充実を図ることにより、満足度の向上に努めます。 ※ 満足度は、「満足」と「やや満足」の合算値となります。							

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況（2）人が心惹かれる子育ての先進地化の浸透

指標名	年度別評価	H27～H30の累計 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
子育て支援情報サイトへのアクセス数 (計画期間の累計) 【子育て支援課調】	目安値		12,600	25,200	37,800	50,400	63,000	回
	実績値	48,108	13,580	27,945				
	進捗区分		順調	順調				
進捗状況の分析	サイトの認知度も定着し、目安値を達成しました。 ※ 「パパママフレ」：利用者が知りたい子育てサービスが容易に検索できるサイト（官民共同で運営） ※ 市の子育て支援情報サイト（パパママフレ）へのアクセス数							

基本目標3に係る具体的な取組の進捗状況

(1) 子育て世代が実感する「子育てのトップランナー」の実現

- ① 「一歩先を行く保育」を実現する新たな保育施策の展開
- ② 保育士が働きたいと思える環境の構築
- ⑥ 乳幼児の疾病に対する対処法の周知
- ⑦ 子育て支援拠点の機能充実と活用
 - ・ 利用者支援事業及び子育てサロン事業の実施
 - サングリモ中込において子育て支援コーディネーターが子育てに関する情報提供や相談に応じる「利用者支援事業」の開催
 - 保育士、栄養士、保健師等を子育て相談員に委嘱し、小学生が利用しない午前中の児童館で保護者が幼児とともに過ごしつつ、子育てに対する悩み、不安の解消を図り、育児の楽しさを見出すことを目的に「子育てサロン」の開催
 - ※ 新型コロナウイルス感染防止のため、まん延防止等重点措置等の期間、子育てサロンの開催を中止し、同期間利用者支援事業は電話での相談対応
 - 【開催実績】242回（市内19箇所）、利用者数 延べ4,679人
 - ・ 子育て親子の交流の場の提供や交流の促進、子育て等に関する相談などのほか、育児に関する専門的な話し等が聞ける育児講座（「つどいの広場」）の実施（各会場月1回 運動あそび、親子ヨガ、人形劇、食の話、ベビーマッサージ等実施）
 - ※ 新型コロナウイルス感染防止のため、まん延防止等重点措置等の期間、つどいの広場の開催を中止（相談対応のみ実施）
 - 【開催実績】820回（市内5箇所）、利用者数 延べ17,230人
 - ・ R4.2から会計年度任用職員の保育士に限り賃金をアップ
 - ・ 保育所にICTシステムを導入し、保護者の利便性の向上と保育業務における職員の負担軽減
 - ・ 「教えて！ドクター」の出勤講座の開催（全3回）や冊子・アプリの普及
 - ・ 「野沢地区暮らすまち構想」に基づき、野沢小学校に隣接した県民佐久運動広場跡地に野沢児童館の移転整備及び子育てに関する様々な相談にワンストップで対応する子育て支援拠点施設を併設するための先進地視察及び「佐久市子ども・子育て支援拠点施設基本構想」の策定
- ③ 子ども福祉医療費給付金制度の拡充・継続
 - ・ 福祉医療受給者証の交付者数及び支給件数
 - 1) 子ども（14,781人）・支給件数（146,709件）、2) 母子家庭の母子（1,870人）・支給件数（19,339件）、3) 父子家庭の父子（92人）・支給件数（741件）
 - 4) 未熟児養育医療受給者数及び支給額 受給者数（26人）・支給額（195,240円）
- ④ 不妊治療及び不育症に対する支援（コウノトリ支援事業）
 - ・ 助成件数及び交付総額 136件・21,956,836円（一人当たりの平均交付額 161,447円）、令和3年度実績 交付者136組（うち、妊娠61組、出生50組）
- ⑤ 産前・産後における妊産婦に対する支援
 - ・ 福祉医療受給者証の交付者数及び支給件数 交付者数（1,018人）・支給件数（7,077件）
 - ・ 産後ケア（アウトリーチ型）利用件数 142件（実利用人数：109人）・（宿泊型）利用日数 88日（実利用人数：17人）
- ⑧ 奨学金制度の充実
 - ・ 償還金の償還一部（1/3以内）免除 対象者14名中3名が利用

(2) 人が心惹かれる子育ての先進地化の浸透

- ① 官民協働による「子育て支援情報サイト」の運営
 - ・ 官民協働による子育て支援情報サイト「パパママフレ」による情報発信（アクセス数：14,365回）
- ② 子育て情報の発信
(当該年度は、総合戦略に対応した実績なし)
- ③ 子育ての先進地としての地域外への情報発信
(別途記載済み)

基本目標３に係る審議会意見

- 女性の人口が減少を続けている一方、出生数が増えていることは良いことだと思う。
- 結婚する人が増えないと子どもが増えないと思うので、結婚支援を充実されたい。
- 基本目標３では合計特殊出生率が数値目標となっているが、子どもの増加は結婚が前提となっている。結婚に対する若者の認識も議論していかなければいけないと思う。
- 今の時代、結婚＝出産ではない。結婚しなければ子どもを産めないという価値観を押し付けることは多様性を認め合う現代に合わない。価値観の多様性を捉えた支援も必要ではないか。
- コロナ禍のみならず、恒常的な妊娠・出産・子育てに対する不安を分析し、分析結果に係る対策を実施されたい。
- 母子家庭世帯が働き続けられる環境づくりを図られたい。
- 子育て支援拠点施設に配置する人員について、適材適所で効果を見据えた人員配置をお願いしたい。

基本目標 4

基本目標 4 「多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における『しごと』の創生」

数値目標の進捗状況

指標名	年度別 評価	H28 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
市内事業所の従業員数 【経済センサス】	目安値		—	41,060	—	—	41,800	人
	実績値	40,327	—	—				
	進捗区分		実績値なし	未公表				
総合分析	基本目標４の数値目標は、国の基幹統計調査に基づき設定しています。 令和３年に実施された経済センサス活動調査は、令和４年６月現在、調査結果が公表されていないため、「非公表」となります。 今後も、企業誘致や企業の経営基盤強化、新たな働き方の創設などによる雇用の確保など、安心できる暮らしを支えるための「しごと」の確保に向けた取組を引き続き推進することが必要です。							
R4の取組方針	住民が安心して暮らしていくためには、「しごと」があり、経済的に安定していることが重要であることから、第１期総合戦略から進める「地域に『しごと』をつくる施策」に引き続き取り組む必要があります。 さらに、本市への移住の傾向や移住者の意向からは、「しごと」は、移住の直接の目的としての位置付けより、他の要因による移住に際して暮らしの安定を担保するためとの位置付けが強い側面もあることから、それを踏まえた対応が重要です。 R4は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者への支援や、地域経済を活性化するための取組を進めます。 また、佐久産業支援センター（SOIC）などの産業支援機関と連携した市内企業・産業の活性化や企業誘致の推進、リモートワークの環境整備といった新しい働き方への継続的な支援を実施することで、「しごと」を創生し、若い世代のUIJターンを促進するほか、安心して働けるまちづくりを進めます。							

基本目標 4 「多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における『しごと』の創生」

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況
（１）新たな働き方「佐久市型スマートワーク」の創出

指標名	年度別 評価	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
テレワーク施設の 設置・運営補助に よる事業所の立地 件数及びテレワー ク拠点施設におけ るオフィス契約企 業数（計画期間の 累計）【商工振興 課調】	目安値		1	2	4	6	8	社
	実績値	2	6	9				
	進捗区分		順調	順調				
進捗状況の分析	テレワーク拠点施設「ワークテラス佐久」の本格的な稼働や、首都圏からのアクセスの良さといった本市の強みを生かした施策展開により、実績値は順調に推移しています。 今後も、新型コロナウイルス感染症の影響等によりリモートワークが普及したことから、更なる増加が期待できます。 (内訳) ・ テレワーク施設の設置・運営補助による事業所の立地件数 R2：2件、R3：3件（累計） ・ テレワーク拠点施設におけるオフィス契約企業数 R2：4件、R3：6件（累計）							

基本目標 4 「多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における『しごと』の創生」

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況
（2）世界とつながる「佐久市型グローバルワーク」の推進

指標名	年度別 評価	H28～H30の平均 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
ヘルスケア関連産業における新製品・新技術の開発件数（計画期間の累計）【商工振興課調】	目安値		3	6	9	12	15	件
	実績値	2.66	11	15				
	進捗区分		順調	順調				
進捗状況の分析	本市の強み（健康長寿）を生かした産業振興の推進を事業の柱の一つとする一般社団法人佐久産業支援センター（SOIC）による新製品・新技術の開発支援や、佐久市ものづくり産業支援事業といった支援により、ヘルスケア関連産業における新製品・新技術の開発件数が着実に増加しています。							

指標名	年度別 評価	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
「福祉・介護のつばさ事業」に基づく支援事業を通じた地域事業者による外国人材の受入れ人数【高齢者福祉課調】	目安値		36	52	68	84	100	人
	実績値	22	31	45				
	進捗区分		概ね順調	概ね順調				
進捗状況の分析	介護人材還流創出事業の推進により、介護事業所の外国人材の受入れ人数が増加しました。 ・福祉・介護のつばさ事業連絡会議の運営（書面により2回開催）、外国人生活相談窓口の設置（3名配置）、日本語語学教室及び研修会の開催、生活ガイドブックの制作や配布（やさしい日本語、インドネシア語、ベトナム語、ポルトガル語、中国語、タイ語版の制作及び外国人介護人材への配布）、外国人材受け入れ状況等に関するアンケートの実施、佐久地域版外国人介護職員の活躍冊子作成							

基本目標 4 「多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における『しごと』の創生」

重要業績評価指標（KPI）の進捗状況
（3）官民連携による地域産業への新たな付加価値の創出

指標名	年度別 評価	過去5年の累計 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)	単位
ものづくり補助金 を活用して開発さ れた新製品・新技 術数（計画期間の 累計）【商工振興 課調】	目安値		2	4	6	8	10	件
	実績値	11	2	5				
	進捗区分		順調	順調				
進捗状況の分析	本補助事業は、対象者が共同開発を行う中小企業という条件がありますが、佐久産業支援センターの設立により企業間連携が図りやすくなったことなどから、今後、ものづくり補助金の活用が増加すると見込んでいます。							

基本目標4に係る具体的な取組の進捗状況①

(1) 新たな働き方「佐久市型スマートワーク」の創出

- ① **新たな働き方の推進**
(別途記載済み)
- ② **空き店舗を活用した創業支援**
 - ・ 補助件数 新規：21件・継続：43件、補助総額：2,255万円
- ③ **求職者への支援と企業とのマッチング支援**
 - ・ 佐久職業安定協会事業として、就職ガイダンスの開催、佐久平企業ガイドブックの作成及び配布、高校生対象の事業所見学会（初の試みとして高等学校へ企業が出向いて説明を行うとともに、後日、紹介動画を限定配信）
 - ・ 佐久市勤労者互助会事業として、会員への給付金事業を実施
 - ・ 市単独事業として、市内での就職面接会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止、中小企業退職金共済掛金補助、インターンシップ事業（事業所向け及び学生向け）（企業：9件、学生：4件）、移住者雇用対策補助（10件）、資格取得費補助（3件）、勤労者のための生活資金の融資を実施
 - ・ 就職支援員による学校訪問及び企業訪問（佐久市無料職業紹介所（さくさくワーク））は、新型コロナウイルス感染症の影響により、電話や市役所での聞き取りを中心（101件）とし、東京での企業PRイベントは中止
- ④ **オンラインでつながりキャリア形成を図る、「SAKUテレ・インターン」の実施**
 - ・ 佐久市出身・佐久市へ興味を持つ学生向けにオンラインを中心としたインターンシップを実施
 - ワークテラス佐久で新しい働き方を実践する方へのインタビュー、雑誌制作を通じて様々な仕事を疑似体験する『「新しい働き方図鑑」制作インターンシップ（学生12名）』と地域企業の経営課題解決に向けたイベント開催を通じて実践的な仕事を疑似体験する「ふるさと企業インターンシップ（学生5名）」の2体系で実施
- ⑤ **スマート農業の推進と農業法人化の促進**
 - ・ 佐久市新品目導入試験圃場（@跡部）におけるドローンによる農業散布
 - ・ 同圃場において、ハウス内の温度・湿度・日射・二酸化炭素等の情報をクラウドに集約し、パソコンやスマホでの環境データの確認や、ハウス内の換気装置、カーテン装置、循環扇などを一元管理し自動制御や遠隔操作が可能なシステムの導入
 - ・ 就農相談を15回実施し、参加者29名中9名が就農見込
 - ・ 認定農業者数については、新規認定12件（認定農業者数：279人（R4.3月末））
- ⑥ **希望するワーク・ライフ・バランスの実現の支援**
 - ・ 県が実施する「社員の子育て応援宣言！」制度の市内企業登録者数：95（R4.3月末）
- ⑦ **男女共同参画社会の実現**
 - ・ 佐久市男女共同参画推進事業者表彰：2事業者（㈱西軽精機、㈱サワイ）
 - ・ 地域活動等における各種団体等の支援として、パートナーシップ佐久と連携し、国や県が主催する講演会研修会等へ参加
 - ・ 方針決定過程への女性の参画推進として、佐久市における女性の公職参画状況調査を実施し、審議会等への女性登用の呼びかけ
- ⑧ **佐久市型スマートワークの情報発信**
(別途記載済み)

(2) 世界とつながる「佐久市型グローバルワーク」の推進

- ① **「ジャパnbrand『健康長寿』推進事業」の展開**
(別途記載済み)
- ② **「福祉・介護のつばさ事業」の展開**
(別途記載済み)

基本目標 4 に係る具体的な取組の進捗状況②

(3) 官民連携による地域産業への新たな付加価値の創出

① 「健康長寿」を核とした産業支援

- ・ 佐久産業支援センター（S0IC）を通じた、経営基盤強化のための相談業務、医療介護関連製品の開発支援、産業ブランディング支援としてのPR動画制作、人材教育のための講座の実施
- ・ ものづくり支援事業においては、3事業に対して支援を実施
- ※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により工業経営合理化事業の実施ができなかった

② 工業団地整備と空き工場等の活用による企業誘致

- ・ 産業立地推進員による電話対応（325件）により企業への本市のPR、立地動向などの情報収集を実施
- ・ 佐久臼田インター工業団地については、造成工事が完了し全4区画4社の立地企業が決定、土地売買契約を締結
- ・ ワークテラス佐久の利用促進、サテライトオフィスの賃借料に対する補助制度等を市ホームページ、ワークテラス佐久を利用したの情報発信及び総務省主催の「サテライトオフィス・マッチングセミナー」への参加による誘致を実施した

③ 技能・知識の獲得の支援

- ・ 交付実績 3件（介護福祉士実務者研修、喀痰吸引等研修、中型自動車免許）

基本目標 4 に係る審議会意見

- 佐久産業支援センター（S0IC）も軌道に乗ってきている。市としても協力をお願いしたい。
- 市も集中投資をし、エリアごと特徴づけを行い、収益を上げてほしい。

地方創生推進交付金事業

地方創生推進交付金事業の効果検証①

佐久市シティプロモーション推進事業～シルクルスムサイクルによる「健やかなくらし佐久」～

事業概要	佐久市シティプロモーション基本方針に基づき、メインターゲットを20代から40代の東京圏在住者及び市民とし、市の卓越性等を適切な情報発信により、東京圏在住者に佐久市を認知・理解してもらい、来訪による交流人口、関係人口の創出を、また、市民には、シビックプライドの醸成により、転出者の抑制やUターンにつなげ、移住定住人口増加による人口減少の抑制と佐久市の創生に資する。					
指標名	年度別評価	H30（基準値）	R1	R2	R3（目標値）	単位
東京圏からの20代から40代の移住者数（累計）	目安値		24	39	57	人
	実績値	12	25	64	92	
	進捗区分		順調	順調	達成	
佐久市の認知度（対象：東京圏在住20代～40代）	目安値		45.6	50.0	55.0	%
	実績値	41.6	39.8	41.5	36.7	
	進捗区分		努力を要する	努力を要する	未達成	
佐久市への来訪者指数（対象：東京圏在住20代～40代）	目安値		23.6	26.0	29.0	%
	実績値	21.6	20.6	20.3	19.2	
	進捗区分		努力を要する	努力を要する	未達成	
シビックプライドポイント（誇り指数）	目安値		20.0	21.0	25.0	ポイント（pt）
	実績値	19.0	29.8	40.8	36.0	
	進捗状況		順調	順調	達成	
進捗状況の分析	R3は、東京圏認知話題化施策として、試住の情報サイト「Shijuly」を構築し、YouTuberタイアップによるイメージ動画の制作等に取り組みました。 なお、新型コロナウイルス感染症の影響により「クル」を推進する施策を実施することができませんでした。 効果検証のアンケートでは、移住者数の上昇は見られましたが、認知度・来訪者数の指標が横ばいでした。					
今後の取組方針	効果検証アンケートで「認知度・来訪者」の指標が横ばいであったことから、認知度を向上させるための取組を継続し、認知度の向上に努めます。 R4は、「シティプロモーション基本方針（第2期 令和4年度～令和6年度）」に基づき、引き続き認知度を向上させるための施策に取り組み、「リモート市役所」の活用により、参加者が主体となって盛り上げる仕組みづくりに取り組みます。					

3

地方創生推進交付金事業の効果検証②

佐久市「しごと」の創生（創業支援・まるっとテレワーク推進）事業

事業概要	暮らしやすさを誇る本市に移住を促し、「働き方改革」に伴うワークライフバランスを実現させるため、市内においてテレワークの拠点整備を行い、施設の利活用による新たな「しごと」の場を提供することで、市外からの移住者やUターン者などの創業により市内定着人口の増加につなげる。また、地域には出産を機に仕事を辞めざるを得なかった女性や育児中により働きたくても働けない方、起業をしてみたいがどうしたらいいかわからないといった若者の声も多く聞かれている中、創業支援事業により地域内における開業といった「しごと」を生み出すことで、開業に伴う地域の活性化を図るとともに、市外への転出を防ぎ、定住人口を確保する。					
指標名	年度別評価	H30（基準値）	R1	R2	R3（目標値）	単位
首都圏等からのU・I・Jターンによる創業者数（累計）	目安値		2	6	10	人
	実績値	0	4	9	23	
	進捗区分		順調	順調	達成	
支援事業を通じた「女性起業スタートアップ事業講座」への参加者数（累計）	目安値		12	24	26	人
	実績値	0	23	46	75	
	進捗区分		順調	順調	達成	
支援事業施設におけるサテライトオフィス契約企業数（累計）	目安値		2	4	6	社
	実績値	0	3	5	9	
	進捗区分		順調	順調	達成	
支援事業施設における市外テレワーカー利用者数	目安値		20	60	100	人
	実績値	0	88	589	1,136	
	進捗区分		順調	順調	達成	
進捗状況の分析	令和2年に開所したテレワーク拠点施設「ワークテラス佐久」は、働き方改革や新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴うリモートワークの普及により、想定以上に利用が促進されました。 具体的には、若者（特に女性）のUターンを促進するため、女性向けの創業支援講座を実施したところ、本講座への参加者は順調に推移しており、参加者の移住や創業などが進んでいます。 いずれも目標値を上回る実績値となっており、順調に事業が進捗しているものと考えます。					
今後の取組方針	今年度から地方創生推進交付金の交付が終了し自走に入りますが、今後も当施設における新たなサテライトオフィス契約企業やテレワーク利用者の獲得及び創業の促進を図ります。 また、佐久地域にテレワーク施設が増えてきたことから、他施設との差別化を図ります。					

地方創生推進交付金事業の効果検証③

「魅力あるしごと」を通じたU I J ターン促進事業

事業概要	市内企業を紹介するPR動画やリクルーティング情報等を集約して掲載する「就活情報サイト」を一般社団法人佐久産業支援センター（SOIC）と新たに構築し、若い世代のUIJターン促進を図る。 また、市内企業や地域課題を副業として外注化し、移住者やリモートワーカーへ紹介することで、企業の人材不足解消を図るとともに、リモートワーカーの移住促進を図る。					
指標名	年度別評価	R2（基準値）	R3	R4	R5（目標値）	単位
支援事業を通じた事業参加企業へのUIJターン就職者数	目安値		20	50	80	人
	実績値	0	－			
	進捗区分		実績値なし			
副業創出事業におけるマッチング件数	目安値		2	5	10	件
	実績値	0	2			
	進捗区分		順調			
地域産業PR動画チャンネル登録者数	目安値		200	400	600	人
	実績値	0	46			
	進捗区分		努力を要する			
テレワーク拠点施設を利用する新規移住者数	目安値		2	6	11	人
	実績値	0	4			
	進捗状況		順調			
進捗状況の分析	新型コロナウイルス感染症の影響等に伴うテレワークの普及や首都圏からのアクセスの良さなどの要因により、テレワーク拠点施設を利用する移住者は増加傾向にあります。また、企業で副業が容認されはじめたこともあり、副業創出事業におけるマッチング数も順調に推移しています。 一方、地域産業PR動画は、企業の選定や動画制作に時間を要したことで動画の公開期間を十分に確保できず、地域産業PR動画チャンネル登録者数が伸び悩みました。					
今後の取組方針	関係機関と連携し、地域企業に対してPR動画の対象企業の募集に係る情報提供を実施するとともに、市ホームページや産業支援機関ホームページ、リクルーティングイベントにおいて、取組自体の周知を含めた情報発信に努めます。					

地方創生推進交付金事業の効果検証④

福祉・介護のつばさ事業～「アジア健康構想」に基づく外国人材還流の創出による佐久式介護のアジア展開～

事業概要	現在国が推進する「アジア健康構想」に基づき、東南アジア諸国での介護サービス提供を支える人材を佐久地域で育成するとともに、民間事業者の海外展開により帰国後の職場を創出する循環型の仕組みと体制を整備する。これにより、本地域に不足する福祉・介護産業の担い手の創出をも図り、地域中核産業の持続的な発展を目指す。					
指標名	年度別評価	H30 (基準値)	R1	R2	R3 (目標値)	単位
支援事業による地域事業者の福祉・介護関係の海外展開案件の創出件数（累計）	目安値		0	1	2	件
	実績値	0	0	1	1	
	進捗区分		実績値なし	順調	未達成	
支援事業を通じた地域事業者による外国人材の受入れ人数（累計）	目安値		10	30	50	人
	実績値	0	22	31	45	
	進捗区分		順調	順調	概ね達成	
進捗状況の分析	R1は「福祉・介護のつばさ連絡会議」を立ち上げ、事業コーディネーターを配置し、外国人介護人材の確保と定着のための官民連携による推進体制の構築を進めるため、佐久地域の介護事業者向けの研修会や、生活ガイドブックの制作など、外国人介護人材の受入れ体制の構築を進めました。 R2は、これに加え外国人材の通勤環境の整備や、生活ガイドブックの制作及び配布、また、日本語語学教室の開催など生活のための支援などを追加し、1年目に構築した受入れ体制の充実を図りました。 R3は、過去2年間の取り組みに加え、更なる外国人介護人材受け入れ促進のため、介護事業所へ外国人材受入れ状況等についてアンケートの実施及び佐久地域版外国人介護職員の活躍冊子を作成するとともに、介護人材還流創出事業の推進により、介護事業所の外国人材の受入れ人数が増加しました。					
今後の取組方針	本事業はR3をもって終了となりましたが、外国人介護人材の受入れを更に促進するため、外国人介護人材が佐久地域で安心して生活ができるよう、R4以降も外国人生活相談窓口を継続します。 また、外国人介護人材の受入れを希望する介護事業所に対し、県の実施している受入れ制度等の紹介を行い、円滑に受入れができるよう支援を実施します。					

36